



ぐるっとマップ

No.278 農業用ため池

保存版

マップ作成: NPO法人ぐるっとネットワーク大町

「ため池」とは、人工的に造られた施設で、水を止める堤と取水する仕組みを備えたもののことです。農業用水を安定して確保するため、江戸時代には全国で多くのため池が造られました。この地域では水量の確保のほか、冷たい水を温める機能も重要です。北アルプス地域には27もの農業用ため池があり、そのうち25が大町市内に集中しています。

近年、台風による豪雨や大規模な地震等により、農業用ため池が被災するケースが増えています。そこで農林水産省では、ため池の情報を正確に把握し適切に管理することでため池決壊の被害を防ぐと、新たに法律を整備しました。

これを受けて長野県では、浸水区域に家屋や公共施設があり、決壊した場合人的被害のおそれがあるため池を、「防災重点ため池」として今年度新たに指定しています。今回のマップでは、大町市を中心に、農業用ため池を紹介します。

● 農業用防災重点ため池 ● その他の農業用ため池

6. 大沢寺ため池 昭和28年築造。

計画貯水量56000m³、灌漑面積50ha以上。小沢沢の湧水を溜めるため、はるか昔に造られた「しょうが池」が元で、現在は越後沢の冷たい水を温める温水ため池として生まれ変わり活用されています。



下流に別荘・民家があるため、防災重点ため池に指定され、2019年度には「ため池監視システム」が設置されました。



7. 大原ため池 昭和28年築造。

計画貯水量7000m³、灌漑面積60ha。大町新堰の一部の水を貯水し温め、飯綱官堰に放流しています。

8. 大出第1~第3集水池 昭和30年代築造。

合計計画貯水量10000m³、最盛期灌漑面積60ha。もともとは黒部ダム建設に使う骨材洗浄用水確保のため、大出地域の豊富な湧水を集めるため池でした。その後は鹿島川対岸の農地にサイフォンで水を送っていましたが現在は使われていません。



9. ス保第1,第2調整池

昭和34年築造。合計計画貯水量30000m³。もともとは黒部ダム建設のための骨材洗浄用に造られました。現在も広範囲を灌漑しており、2020年にはボランティアを募り景観整備が行われました。



● マップ外 親の原ため池 (川谷村千国)

● マップ外 細野ため池 (白馬村北沢細野)



1. 新行ため池 昭和47年築造。

計画貯水量12000m³、灌漑面積8ha。美麻新行の権現山の湧水を蓄え、農業や生活用水に使われています。下流域に新行の住宅地があり、防災重点ため池に指定されています。



2. 中原ため池 昭和35年築造。

計画貯水量10000m³、灌漑面積6ha。新行ため池同様権現山の湧水を蓄え、下流農地の補給水となっています。



10. 栢沢ため池

明治初期築造。計画貯水量4000m³、灌漑面積2ha。国道19号線に面しており、防災重点ため池となっています。国道と犀川の間の農地を潤しています。



3. 居谷里第1号ため池 明治25年築造。計画貯水量60000m³。

4. 居谷里第2号ため池 昭和10年築造。計画貯水量45000m³。

5. 居谷里第3号ため池 昭和27年築造。計画貯水量5000m³。

大町市の水道水源でもある豊富な居谷里の湧水は、室町時代の昔から、居谷里堰を経て社北部の農業用水としても使われてきました。下に三日町の集落があることから、防災重点ため池に指定され、2021年までに3つのため池すべてに「ため池監視システム」が設置される予定です。

このマップでは、四季折々の地域の魅力を再発見するために、皆様から情報をいただきながら様々な切り口で紹介してまいります。ぐるっとネットワーク大町事務局 TEL 0261-85-0556 FAX 0261-85-0557

※ このマップは、大町市建設課および大町市土地改良区に情報をいただいて作成しました。